

しずえ

礎

茨城県民間保育協議会青年部

第14号

2006.3



- 青年部視察研修参加報告(平成 17 年 11 月 29 日~30 日)
 - ・ 栃木市泉川町 651-1 さくら保育園
 - ・ 宇都宮市上桑島 1310-14 瑞穂野保育園
- 財務分析セミナー参加報告(平成 17 年 12 月 13 日)
 - ・ 茨城県総合福祉会館多目的ホール
- 子育てセンター視察報告(平成 18 年 2 月 14 日)
 - ・ 行方市中根 309-1 北浦保育園
- 青年部全体会参加報告(平成 18 年 2 月 16 日)
 - ・ 茨城県総合福祉会館小研修室(A)

青年部視察研修に参加して

あかつき保育園
園長 佐藤昌彦

平成 17 年 11 月 29、30 日の 2 日間に渡り、茨城県のお隣、栃木県の「さくら保育園」と「瑞穂野保育園」にお邪魔して青年部視察研修会が行われ、私も初めて参加させていただきました。

「さくら保育園」は「いきいき熱中の総合幼児教育」をモットーに昭和 54 年に栃木市に開園された定員 220 名の大きな保育園でした。また、隣り合う敷



地には平成 8 年に開園された定員 45 名の 3 歳未満児専門保育園の「さくら第二保育園」と、道を挟んで反対側には学童保育を行っている「児童館さくら 3 J ホール」がありました。

「さくら保育園」の園舎は平成 14 年にリニューアルされ、非常に綺麗で良く考えら

れた作りになっていました。明るいエントランスには観葉植物が飾られ、通路の壁にはマーチング発表会の写真などが所狭しと貼られ、あか抜けた都会的な感じがしました。室内では上半身裸になって乾布摩擦をしたあと、裸の

まま元気な書き方や、簡単な計算などを行っている様子など、日頃の保育そのままを見学させていただきました。また、壁が一面が雲の模様になっている遊戯室で、掘園長先生から「さくら保育園」の歴史や現状、少子化に向かうこれからの課題など非常に参考になるお話を伺いました。その後、園児たちによる合唱を聴かせていただきましたが、



保育園児とは思えない表現力にとっても感動しました。

「さくら保育園」を見学した後、途中で昼食を済ませ一路宇都宮の「瑞穂野保育園」へ向かいました。「瑞穂野保育園」は昭和 54 年に開園された定員 90 名の保育園でした。バスが止まったところは保護者用の駐車場だったのですが、

この保護者用の駐車場はわざわざ園舎から少し離れたところに作られています。これは、保護者と子供たちが登降園時に少しでもコミュニケーションできるようにという保育園側の配慮だそうです。また、倉庫だった建物を雨天遊戯場として使っていたり、園舎の屋根に太陽光発電設備を設置し災害時にも利用できるにするなど、いろいろ工夫されているなあという印象を受けました。



「瑞穂野保育園」では、ISO9001の認証を取得しているということで、この認証取得に纏わるお話も伺うことが



できました。最初は阿久津園長先生から職員への働きかけで始まった活動でしたが、軌道に乗ってくると職員が自分達から積極的に意見を出して改善していくようになったこと、無駄が減って仕事の効率が上がったことなど認証取得を目指したことで様々な成果をあげているとのことでした。園長先生が「瑞穂保育園も他園の良いところを

吸収して改善できたのだから。」とおっしゃって、いろいろな資料を惜しげなく提供し丁寧に説明してくださいました。ISOを取得するのは大変難しいという先入観で訪問しましたが、日常の保育を注意深く進めながらマニュアル化していくことで取得できると伺い、思ったより垣根が低いと感じました。またコンサルタントを依頼しなければ費用的にも押さえられるとのことでした。

「瑞穂野保育園」見学を終えて、宿泊先である奥日光のホテルへ向かうバスの中や、宿泊先で日頃忙しい参加者の皆さんといろいろな話をすることができ、非常に勉強になり、また親睦を深めることができました。最後に、今回の視察研修会を企画していただいた青年部研修委員会の皆さん、本当にありがとうございました。



財務分析セミナーに参加して

日の出保育園
副園長 埴 信晋

去る12月13日(火)に県社会福祉会館において、日本保育協会青年部経営委員会の公開委員会として「財務分析セミナー」が開催され、私たち茨城県民間保育協議会青年部のメンバーも参加させていただきました。

「財務分析セミナー」はまず、日本保育協会青年部経営委員会の、竹内勝哉先生(長野県 秋和保育園副園長)が講師になり、財務分析とはどのようなことか、なぜ財務分析をする必要があるのか?というところから始まり、財務分析のやり方、そして財務分析結果の捉え方などを資料をもとに説明され、その財務分析結果をどのようにして将来の保育園経営に繋げていけばよいのかということの説明されました。

この記事を読んでいる皆さんも自園の決算書を持ち出して、財務分析をしてみると自園の置かれている財務状況がハッキリ解ると思います。財務分析をしてみて問題があるようでしたら早い段階から何かしらの対策をたてることが可能になるわけです。まずは自園が置かれている状況を客観的に把握することが重要だと感じました。

その後、2つのグループに分かれ、日本保育協会青年部経営委員の清水利春先生(清心保育園副園長)の指導のもとに「戦略策定シート」を使って、それぞれの園の強み、弱み、機会、脅威について討議をし、それを基に自園の事業の方向性を決定し、その事業の実現に向けての課題、そして具体的な実践について話し合いをし、最後に、お互いのグループ代表が討議内容について発表しました。

このセミナーは、我々経営者が自園がどのような状況に置かれているのかを改めて確認し、先の見えない状況の中でどのような経営戦略を立て、どのように事業展開していけばよいのかを考える良いきっかけになりました。財務状況を客観的に捉えることはなかなか難しいことですが、今後もこのような研修の機会を作っていただき勉強していきたいと思っております。

北浦保育園子育て支援センターを見学して

今年度の広報委員会では「地域子育て支援センター」をメインテーマとして、一年間取材を行ってきましたが、今回は今年度の総まとめとして北浦保育園さんの地域子育て支援センターにお邪魔させていただきました。こちらのセンターは、行方市における中核的な子育て支援センターとして位置付けられ、地域の未就園児の育ちの場として運営されています。



訪問当日は、親子クッキングでバレンタインデーのチョコレート作りを行っていま



した。湯せんにしたチョコレートに、イチゴやバナナをつけて固め、きれいにラッピングをして完成です。どの参加者もとても楽しそうに行っており、出来上がったチョコレートをおいしそうに頬張っていました。お母さん方にお話を伺ってみると、参加している3、4才児の多くが来年度より、近隣の幼稚園に就

園予定とのことでした。家庭にこもりがちな未就園児家庭にとって、週に2回の支援センター活動は社会との関わりを持つ場であり、よその子どもと「育ち」を比較したり保育士さんに子育てのアドバイスをもらうことで、子育て不安を解消する場になっているとのことでした。参加者の中には2、3年も通っている方もおり、お母さん方の仲間作りの場としての役割も担っているようでした。



このように、北浦保育園では、季節の製作活動やクッキング、園庭での戸外遊びなどバラエティに富んだ内容と、経験豊かな保育士さんの指導により理想的な子育て支援活動を展開していると感じました。

青年部全体会に参加して

太陽保育園副園長補佐 森川道成

健康志向の私が最近気になっているのが「メタボリック・シンドローム」という言葉です。聞き慣れない方のためにご説明いたしますと、肥満に加え高血糖や高血圧の異常が重なると生活習慣病の引き金になるという「内臓脂肪（代謝異常）症候群」のことです。生活習慣病の増加などにより上昇し続ける医療費に歯止めをかけるため治療から予防へという転換が図られつつありますが、厚生労働省は来年全国 12 万人を対象にした生活習慣調査を実施するそうです。このような状況の下、心身共に健康な子ども達を育てるために、私達はいったいどんな取り組みをして行けば良いのでしょうか？



さて、2月 16 日（木）に我が調査研究委員会が中心となって青年部全体会が開催され、活発な意見交換が行われました。調査研究委員会では先ごろ各保育園にご協力いただいたアンケート調査の結果をもとに「食育」というテーマに沿って視察研修を行い、それらの報告と考察を交えて発表させていただきました。今年 6 月の内容検討から始まった調査研究委員会の活動は、これまで十回以上の会合を重ね公私共に多忙な各委員は毎回定刻に全員が揃わないという状況を物ともせず、脅威のチームワークで集計・調査・発表へとこぎつけました。

また各園に対するアンケートと平行して各自治体に保育料基準表の提出を依頼しましたが、この作業が厄介でまずは平成の大合併により合併前後の自治体名で苦しむ始末。拳句の果てに未回収の自治体に電話での催促をすれば担当者不審者呼ばわりされるなど散々な目に遇いました。



そんな苦勞の甲斐もあり、子どもたちの食生活のあり方や今後の食育への

取り組みなど、一つの方向性を示した発表ができたものと自負しています。施設管理者、保育士、栄養士を中心とする調理現場一体となって取り組むことや、自然環境をはじめとする地域の社会資源を取り入れた独自の取り組みや、園と家庭が連携した「食育」への取り組みこそが「たくましく生きる力」を持った子どもを育てる基礎になるのではないかと思いました。調査研究委員の皆さま全体会の発表本当にお疲れ様でした。今後とも頑張ってくださいませ。



編集後記

残す任期があと半年余りとなり小泉首相の求心力に驚りが見えてきたようで、これまで誰も逆らえなかった「改革」に揺り戻しが起こっているようです。たしかに今までの社会の枠組を変えなければどうにもならない状況にあり「改革」が大きく後戻りするようでも困ります。しかし財政難というだけでこれまでの保育のシステムを破壊してしまえば子どもの育ちを守ることはできないと思います。そして、私たちは日々の保育に精一杯努力することでしか「改革」の荒波を乗り越えられないのだと思います。

さて、この「礎」14号の発行で広報委員会の今年度の事業は終了するわけですが、委員の皆さんには頻りに集まり取材、編集、発送に奮闘努力していただきましたことに厚く御礼申し上げます。来年度はどんなテーマを進めてまいりましょうか？委員の皆さんのアイディアをお借りして何かしら子どもたちのためになるメッセージを発信していきたいと思っています。委員長



オーモリ弁当®

〒310-8586 水戸市千波町 1918

茨城県民間保育協議会青年部広報委員会

平成 18 年 3 月発行